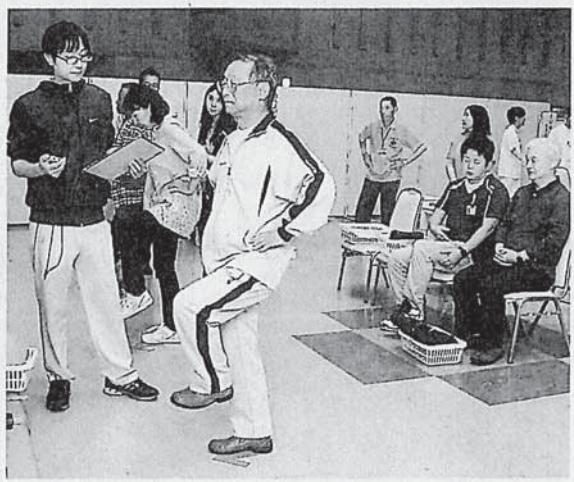
平成29年6月11日(日)　東奥日報(17面)

高齢者1200人の健康調査

弘前「いきいき健診」始まる



体力・運動機能検査で「開眼片足立ち」を行う参加者

全国の高齢者1万人の健康調査に参画する弘前大学と弘前市の「いきいき健診」が10日、弘前市の中央公民館岩木館と岩木文化センターで始まった。16日まで65～80歳の市民約1200人の全身の健康状態を調べる。

高齢者の追跡調査によって認知症のメカニズムや予防法を探る全国的な事業の一環。昨年の参加者と合わせて約2500人が、2025年まで隔年で健康調査を受ける。全国調査は認知症関連の検査が対象だが、弘大と市は独自に、骨密度や歯科口腔(こうくう)なども調査する。

10日は、参加者が3時間ほどかけて約20ブースを回り、血圧や体力・運動機能などを調べた。後日、市内の病院で頭部MRI（磁気共鳴画像装置）検査も行う。動脈硬化度など一部の結果は会場内で説明され、担当スタッフが一人一人に食生活などをアドバイスしていた。

同市八代町の小山えつ子さん(69)は「仕事をしていた時と違って、今は健診を受ける機会がなくなった。くまなく診てもらってありがたい」と話していた。

健診には弘大や市、企業、市民ボランティアなど200人超のスタッフが投入され、参加者と会話しながら調査を行った。

弘大大学院医学研究科の中路重之特任教授は「健康はみんなでつくるもの。単なる大規模健康診断ではなく、声がけを大事にしている。市民が元気になる健診にする」と語った。

（太田佳希）